

# 「化学と生物」原著論文投稿規定

(2004年7月3日改正)

(2005年1月1日実施)

## 総 則

1. 「化学と生物」誌は農芸化学分野及び関連する諸分野における未発表の原著論文を掲載する。論文の内容は独創的なものであり、価値ある新事実または結論を含むものでなければならない。また、特に日本語でなくては適切に示すことができない研究成果、国内においてのみ強く関心がもたれる研究成果などに関するものが望ましい。
2. 投稿者は、原則として日本農芸化学会会員とする。ただし会員外の共同研究者を含むことを妨げない。
3. 原稿が日本農芸化学会に到着した日を以て受付日とする。ただし原稿に不備のあるものは受け付けないことがある。
4. 掲載論文の著作権は日本農芸化学会に属する。
5. 論文の用語は日本語とする。

論文はそれ自身独立して完結した論文でなければならない。未発表で他に発表を予定していないものに限る。ただし、講演要旨、会議議事録などに発表した内容を投稿することは妨げない。印刷面概ね6ページ(後述の「原稿の書き方」に従って図表を含め25枚以内)以内にまとめることが望ましい。

## 審 査

1. 投稿論文に対しては、その希望審査分野に基づいて1名の担当和文誌編集委員が定められる。当該担当編集委員は2名あるいはそれ以上の審査員にその論文の価値判断を依頼し、その結論を参考にして採否の決定を行う。
2. 担当編集委員は論文の内容、文章などについて著者に訂正を助言し、あるいは疑義の解明を求めることができる。担当編集委員の質問・意見に対し著者は明確な回答書を付して、原稿を修正した場合はその修正原稿とともに3週間以内に直接担当編集委員宛返送しなければならない。
3. 特別の理由なく返送に3週間以上を要したとき、または返送された原稿の内容が著しく変更されているときには、新規投稿論文として扱い、返送原稿受取日を以て新しい受付日とし、改めて採否の審査を行う。
4. 編集委員からの修正要求に対して、返送に3週間以上を要すると判断した場合は、速やかに担当編集委員までその旨連絡すること。期限内に連絡または修正原稿の返送がない場合には、投稿を取り下げたものとして処理する。論文を取り下げの場合にも担当編集委員までその旨連絡すること。

## 原稿の書き方

### 1. 一般的注意

- 1.1 論文の記述は正確を期し、全編にわたり簡潔明瞭であること。不要の重複(特に図と表との重複)は避けること。
- 1.2 書き方が不備の場合には原稿の作成し直しを求めることがある。原稿作成に際しては、あらかじめ本誌最新号ならびに投稿

規定を参照し、その体裁に従うこと。

- 1.3 原稿はワードプロセッサ(WORD等を推奨)を用いて印刷すること。A4判の用紙を縦長にして明朝体14ポイント活字でページ当たり28行程度とし、文字間隔を適当にとり、読みやすいようにする。英文活字はTimesあるいは類似のものとする。
- 1.4 図表の挿入希望位置を原稿右側欄外に朱書きする。
- 1.5 原稿は片面のみのタイプ(またはコピー)のこと。
- 1.6 ページの指定は各原稿用紙の下中央に入れ、表紙を1ページとする。

## 2. 表紙と Key words

- 2.1 第1ページを表紙ページとする。表紙ページには上から順に(1)表題、(2)著者名、(3)研究の行われた機関とその所在地、(4)表紙脚注(所属および住所変更、大題目とシリーズ番号、別刷請求先住所などに必要に応じ記入のこと)(5)略号の解説(Abbreviation(s))のように記載すること。
- 2.2 表題は内容を具体的に表し、かつ簡潔であること。表題中には、化学式や定義なしで使用できる略号以外の略号や化学式は用いてはならない。
- 2.3 表題および著者に関する脚注は表紙脚注とし、表紙下段に記す。また研究の行われた場所と現在の所属機関が異なるときは著者に対する脚注に現所属機関とその所在地を書く。
- 2.4 第2ページにabstract及びKey wordsを英語で記載する。abstractは、表題、著者名、所属機関名、内容の順にタイプし、内容は200語以内とする。上下と左右に3cmの余白をとること。12ポイント活字を用い、1枚あたり28行(ダブル・スペース)、左寄せとする。図表は入れないこと。Key wordsは内容を良く表す語句(words/phrases)を5つ以内列記する。特色のない一般的な用語は極力避けること。本文は第3ページから始める。

## 3. 論文の形式

- 3.1 論文は次の形式をとる。
  - (1) 緒言、(2) 実験方法、(3) 実験結果、(4) 考察、(5) 要約、(6) 文献の順とする。また、有機化学関係の場合には主文、実験方法、文献の順に記載することが望ましい。謝辞を入れる場合は文献の前に入れる。
- 3.2 図表は本文中では図1、表2などのように書く。ただし図や表が1つの場合には、番号をつける必要はない。
- 3.3 文献の引用: 本文中に該当人名または事項の右肩に引用の順に(1)、(1~3)のように番号を付し、一括して文献の項に記載する。
- 3.4 私信、未発表結果、投稿中の論文は文献には入れず、本文中に括弧に入れて引用する。  
上記のうち投稿中の論文を本文中に引用した場合で校正時まで

にその論文の掲載が確定したものについては、①参考文献の項の最後部に続き番号をつけ、同じ形式で記載する。②本文中の括弧書き注の肩にその番号を記載する。

なお他人の未発表結果を私信として引用するときは予め本人の了承を得ておくこと。

3.5 他の論文の著者名を引用するときは混乱の起こらない限り姓のみとする。著者が2人の論文は両者の姓を併記し、3人以上の場合は第1著者以外を「他」と略記する。

3.6 定義を必要とする略号や記号の使用は最小限にとどめる。(学会ホームページ *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 投稿規定, 原稿の書き方, 10, 11 も参照のこと) 論文中に3回以上出現する場合に略号を使用すること。使用するときは、初出の箇所に正式名を書き、続けて括弧に入れて略号を示す。用いた略号は第1ページ脚注に一括して表示する。表題では定義を要する略号は使用しない。

3.7 脚注は、本文中に現れた事項の右肩に\*(アスタリスク)を付し、そのページの下方に線を引き、その下に\*とともに記入する。同一ページに数個の注があるときは\*の数によって区別する。

#### 4. 文 献

4.1 引用文献には、本文中での引用順に番号を付して記載する。

4.2 著者名は姓名とも記し、著者全員を記載する。なおページは最初と最後のページを記すこと。文献は著者名、雑誌名(書名)、巻、ページ、発行年の順に記し、欧文雑誌名はイタリック、巻はボールドとする。

(例)堀江 雄, 木村邦男, 井田雅夫: 農化, 63, 975-980 (1991) 受理決定の通知を受けた投稿論文を引用する時は、雑誌名の後に「印刷中」と書き、校正時までに刊行されていれば、巻、ページ、発行年を記入のこと。和文雑誌名は、科学技術文献速報、国内化学および化学工業編、欧文雑誌名は Biological Abstracts および Chemical Abstracts の用例に従うこと。なお、学会ホームページ *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 投稿規定, 原稿の書き方. 4. 引用文献も参照のこと

#### 5. 表

5.1 表の表題、内容は日本語とする。

5.2 表はアラビア数字で番号を付し、表1, 表2のように書く。表ごとに別紙(A4判)に記入する。ワードプロセッサによって作成し、描図用ソフトウェアによって作成してはならない。

5.3 横の文字数は80字(印刷面の幅一杯)、または40字(印刷面の1/2幅)を基準とする。(日本語の場合には50字または25字を基準とする)。

5.4 表には内容を適切に示す題目をつけ、さらに本文を読まなくても必要な実験条件がわかるような説明をつける。ただし、実験方法や他の図表に記載されている実験条件は反復することなくそれらを引用すること。

#### 6. 図

6.1 印刷には著者の原図をそのまま使用する。不鮮明な場合は書

き直しを求めらるるので注意されたい。

6.2 図は1つごと別紙に作成する。各葉下部余白に図の番号(図1, 図2など)と著者名を書く。また図の上下を指定する。

6.3 図のタイトルおよび説明は、別紙に番号順に記載する。図の表題、内容、説明とする。

図の書き方については学会ホームページ *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 投稿規定, 原稿の書き方, 6. 図参照。

#### 7. 写真

7.1 プリントした鮮明なものを3枚用意する。紛失を避けるためにそれぞれ本文と同じ用紙を台紙として糊づけし、下部余白に名前を記入する。

7.2 写真には図番号をつけて図として取り扱う。

7.3 雑誌掲載時の縮尺は図に準ずる。ただし電子顕微鏡写真は希望する縮尺を指定できるが、印刷面1ページを越えないこと。また顕微鏡写真中には必ずスケールバーを入れること。

7.4 白黒写真として印刷するときは、あらかじめ白黒にプリントしたものを送付する。

7.5 カラー印刷希望の有無を記入する。いずれも実費を申し受ける。

#### 8. 構造式

8.1 構造式の書き方は図の書き方に準ずる(6.1参照)

8.2 構造式のみを補足的に書くときは図番号や表題をつけなくてもよいが、多数の構造式を用いて反応の順序を示すときなどは、図番号またはスキーム番号(1, 2など)を付し、それぞれを図またはスキームとして取り扱う。

8.3 印刷面の構造式の大きさは、図の場合の縮尺に準ずる。

#### 9. 数式

9.1 数式は極力1行内に収まるように書く。

(例) (a)  $i_a = 650 nD^{1/2} cm^{2/3} t^{1/6}$

(b)  $E = E - (RT/nF) \ln(a_r/a_o)$

9.2 Exponent の分数はなるべく  $Q/RT$  のように書くこと。

#### 10. 単位と記号

種々の物理量の単位およびその用語と記号は国際単位系 SI (metric system) を基本とするが、各学問分野で慣用的に用いられている単位で SI 単位に置き換え難いものは使用しても差し支えない。(学会ホームページ *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 投稿規定, 原稿の書き方, 10 単位と略号参照)。ただし1つの論文の中で2種類の単位系を混用しないこと。

#### 11. 物質の略称ならびに表示法

常用的に使用されている物質名のうち、極めて使用頻度が高くまた使い方が国際的に共通の略称で統一されている物質名については、定義なしで略称を用いることができる。(学会ホームページ *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 投稿規定, 原稿の書き方, 11. 物質の略称ならびに表示法参照)

## 12. 学名

生物の学名はイタリックを用いる。

## 13. 数字の書き方

数字はアラビア数字を用い、紛らわしい表示は極力避ける。

## 14. 分析値の表示法

分析値の表示は、通常実験の部で行う。測定法の略称、測定単位、測定値、帰属などを盛り込んで簡潔に記載すること。(学会ホームページ *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 投稿規定、原稿の書き方、14. 分析値の表示法参照)

### 投稿にあたって

1. 原稿は下記に送付のこと。  
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16  
学会センタービル内  
日本農芸化学会 編集係
2. 原稿、図表とも3部送付のこと。原稿は3部ともコピーでもよいが鮮明であること。ただし写真は3部ともプリントした陽画であること。
3. 投稿にあたって下記の書類を添付のこと。  
(a) 送り状(3通): 全ての論文には本会規定の和文原稿送り状を用いること。  
論文の分類、以後著者との連絡など、本状の記載事項に基づいて行われるので正確に記入されたい。  
(b) 審査希望分野の分類: 該当する項目に○印を付すこと。○印は複数にわたってもかまわないが、最適の項目に◎を付すこと。
4. 引用文献に投稿中(または印刷中)の論文がある場合、審査の都合上コピー2部を添付のこと。なお、編集委員会からの要

求があった場合には、その他の参考資料を提出しなければならない。

5. ヒトを対象にした論文は、世界医師総会(World Medical Assembly)において承認されたヘルシンキ宣言(1964年承認、1989年修正)の精神に則って行われた研究であること。また動物を用いた論文については、「実験動物の飼養および保管等に関する基準」(昭和55年総理府告示第6号)等を遵守して行われた研究であること。

### 掲載にあたって

1. 掲載が決定した論文は編集委員の指示に従って修正後、指示の記載された修正前と修正後の印刷原稿各一部と共に電子媒体で学会事務局に提出する。提出方法は事務局からの指示に従う。写真を含む図は予め情報密度の高いものを用意されたい。
2. 校正刷りの著者校正は1回とする。校正に際しては、印刷の誤り以外、字句の訂正、挿入、削除は許されない。ただし、担当編集委員が特別な事情があると認めた場合許可することがある。この場合それにとりなす経費の実費は著者の負担とする。
3. 指定された日までに返送がなければ、校正の権利を放棄したものとみなす。
4. 掲載料および別刷料金は別表に基づき請求される。カラー印刷は別途実費を申し受ける。
5. 別刷は50部単位で申し込むことができる。本会指定の用紙に希望数量記入のうえ、著者校正返送時に申し込むこと。
6. 印刷後に重大な誤りを発見したときは、その旨編集部に出るとともに、訂正原稿を提出する。原稿は「訂正」として本誌に掲載される。著者の誤りによる訂正の場合は実費を申し受ける。

## 「化学と生物」原著論文掲載料金および別刷料金

### 原著論文掲載料金

1 頁につき 5,000 円 (消費税込 5,250 円)

頁	料 金	(消費税込)
1	5,000 円	( 5,250 円)
2	10,000	(10,500)
3	15,000	(15,750)
4	20,000	(21,000)
5	25,000	(26,250)
6	30,000	(31,500)

### 別刷料金表 (消費税込)

頁	50 部	100 部	150 部	200 部	250 部
1—2	2,500 円 (2,625)	5,000 (5,250)	7,500 (7,875)	10,000 (10,500)	12,500 (13,125)
3—4	5,000 (5,250)	10,000 (10,500)	15,000 (15,750)	20,000 (21,000)	25,000 (26,250)
5—6	7,500 (7,875)	15,000 (15,750)	22,500 (23,625)	30,000 (31,500)	37,500 (39,375)
7—8	10,000 (10,500)	20,000 (21,000)	30,000 (31,500)	40,000 (42,000)	50,000 (52,500)

表 題	
著者氏名・所属	
連絡先	電 話 — — (内 )
郵便番号	F A X — —
所在地	
所 属	
氏 名	会員番号
本 文	枚
原 別 図	枚
稿 (うち写真	枚)
図説明文	枚
別 表	表
数	表
計	枚
論文の分類	
1. Biological and Analytical Chemistry	
2. Microbiology and Fermentation Technology	
3. Organic and Pesticide Chemistry	
4. Food and Nutrition Sciences and Technology	

### 審査希望分野の分類

該当する項目に○印を付すこと。○印は何項目にわたっても構わないが、最も適当な項目は◎とすること。

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p>I. 物理化学, 分析化学, その他化学一般</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物理化学 (生物物理, 生物物理化学, 応用物理学)</li> <li>2. 分析化学 (分析理論, 分析法)</li> <li>3. その他化学一般</li> </ol> <p>II. 有機化学, 天然物化学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体成分の分析, 分布, 化学分類学</li> <li>2. 生理活性物質の精製と構造解析</li> <li>3. 生合成と代謝</li> <li>4. 抗生物質</li> <li>5. 農 薬</li> <li>6. 反応と合成</li> </ol> <p>III. 生体高分子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. タンパク質</li> <li>2. 核 酸</li> <li>3. 多 糖 類</li> <li>4. 脂 質</li> <li>5. 複合高分子</li> </ol> <p>IV. 酵 素</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖質関連酵素</li> <li>2. 脂質関連酵素</li> <li>3. タンパク質, ペプチド関連酵素</li> <li>4. アミノ酸関連酵素</li> <li>5. 核酸関連酵素</li> <li>6. その他の生体物質関連酵素</li> <li>7. 合成基質関連, 酵素の生合成, 分布, 局在性, 存在状態</li> </ol> | <p>V. 食 品</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分 析</li> <li>2. 化学, 生化学</li> <li>3. 物性, 物理化学</li> <li>4. 加工, 保蔵, 衛生 (安全性)</li> <li>5. 食品工学</li> </ol> <p>VI. 微 生 物</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分離, 分類, 保存, 生態</li> <li>2. 栄養, 生育, 増殖</li> <li>3. 構造と機能 (形成形態, 細胞壁, 細胞膜, オルガネラ)</li> <li>4. 遺伝子, 遺伝子発現および遺伝子工学</li> <li>5. タンパク質の分泌, 分泌生産</li> <li>6. 抗生物質の作用機作</li> <li>7. 代謝, 代謝調節</li> <li>8. 発酵生産, 微生物生産</li> </ol> <p>VII. 動 物</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養, 生理, 飼料</li> <li>2. 代謝, 代謝調節</li> <li>3. 遺伝子 (構造, 発現, 制御)</li> <li>4. 細胞培養, 組織培養</li> <li>5. そ の 他</li> </ol> <p>VIII. 植 物</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養, 生理, 肥料</li> <li>2. 代謝, 代謝調節</li> <li>3. 遺伝子 (構造, 発現, 制御)</li> <li>4. 細胞培養, 組織培養, 細胞育種</li> </ol> | <p>5. そ の 他</p> <p>IX. タンパク質工学</p> <p>X. 生物化学工学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 固定化酵素, 固定化微生物</li> <li>2. 培養工学 (微生物, 動植物細胞)</li> <li>3. そ の 他</li> </ol> <p>XI. 環境化学</p> |
|--|---|--|